

正常性確認ガイド

1. はじめに

本書は、Generative AI FW に於いて、Generative AI FWがインストールされたサーバの正常性確認手順について記載したものです。

2. 前提条件

本手順はGenerative AI FWのサーバの電源が起動しサーバにログオンできている必要があります。

加えて、Generative AI FWのサーバとは別にアクセス用のWindows PCがあり、サーバへの通信ができる必要があります。また、Windows PCはcurlコマンドを使え、動作環境に記載のWebブラウザが使用できる必要があります。

3. アクセス先の確認

/opt/nec/genai/config/genai.envを開き、GENAI_DOMAINの値を確認してください。

```
1 vi /opt/nec/genai/config/genai.env
```

4. 正常性確認手順

構築が正常にできているかどうかを管理ポータル画面、チャット画面、APIの観点で確認していきます。

正常性確認は**アクセス用のWindows PC**から行います。

4.1. Keycloakの確認

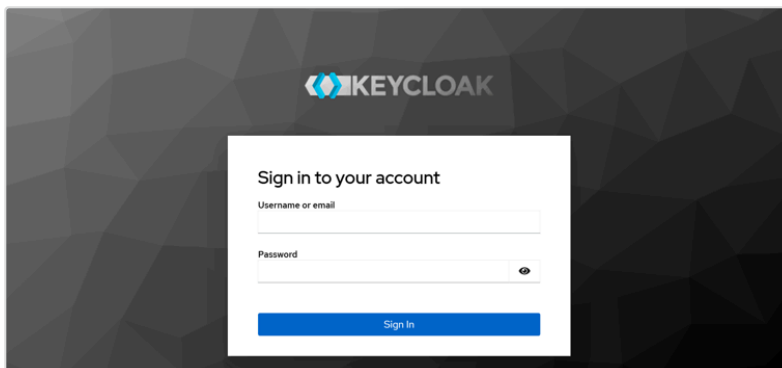
認証(Keycloak)の管理画面にアクセスし、セットアップが完了しているか確認します。

1. Webブラウザを立ち上げ以下にアクセスします。アクセス先はGENAI_DOMAINで指定した値になります。

i https://<GENAI_DOMAINの指定値>/keycloak

i HTTPSに既定では自己証明書を使用しています。その場合「この接続ではプライバシーが保護されません」と注意が表示されますが、問題ありませんので接続してください。

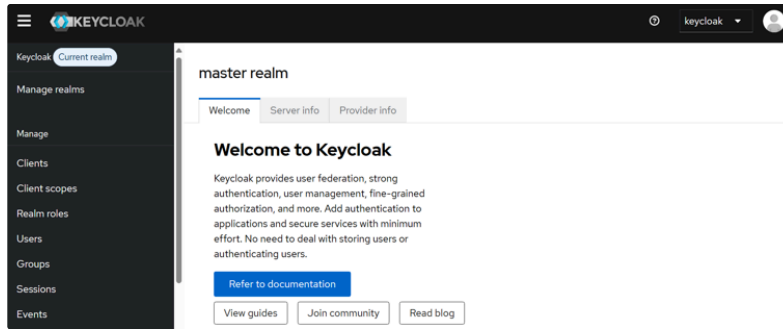
アクセスが成功すると、以下の画面が表示されます。



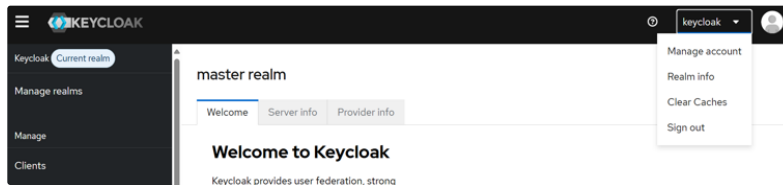
2. Keycloakの管理ユーザでサインインします。

i Keycloakの管理ユーザのアカウント・パスワードは別途「初期アカウント一覧」を確認してください。

3. サインインに成功すると、以下の画面が表示されます。



4. Sign out を押しログアウトしてください。



4.2. 管理ポータル画面の確認

管理ポータル画面にアクセスし、セットアップが完了しているか確認します。

1. Webブラウザを立ち上げ以下にアクセスします。アクセス先はGENAI_DOMAINで指定した値になります。

https://<GENAI_DOMAINの指定値>/admin

HTTPSに既定では自己証明書を使用しています。その場合「この接続ではプライバシーが保護されません」と注意が表示されますが、問題ありませんので接続してください。

アクセスが成功すると、以下の画面が表示されます。



2. ログインを押し、初期管理ユーザでサインインします。初期ユーザ以外でログインする場合、Eメールには登録時のメールアドレスを指定してください。

- 初期管理ユーザのアカウント・パスワードは別途「初期アカウント一覧」を確認してください。
- 初期管理ユーザはEメールにアカウント名を指定してください。




- サインインに成功すると、以下の画面が表示されます。




- 左側のメニューからユーザを選択し、以下のユーザが表示されることを確認します。

 [admin@example.com](#)

- 左側のメニューからテンプレートを選択し、「システムテンプレート一覧」にテンプレートが3つ登録されていることを確認します。
- 左側のメニューからインデックスを選択、インデックス一覧の追加ボタンを押します。
- 以下の値を設定し、追加ボタンを押します。



 インデックス名 : test-index
所属グループ選択 : ALL USERS GROUP
インデックスの説明 : テスト用インデックス

インデックス追加


インデックス名 必須 

test-index



利用可能グループとユーザ選択

 グループ選択  ユーザ選択

グループを検索...

 ALL USERS GROUP

以下のグループとユーザに権限を付与します

 ALL USERS GROUP 

インデックスの説明
最大2048文字まで入力できます。

テスト用インデックス

- F5を押し画面を更新します。画面を更新後にインデックス一覧に「test-index」が表示されれば追加成功です。
- 左側のメニューからログアウトを押しログイン画面に戻ります。

4.3. チャット画面の確認

チャット画面にアクセスし、セットアップが完了しているか確認します。

- Webブラウザを立ち上げ以下にアクセスします。

 https://<GENAI_DOMAINの指定値>/

- ① HTTPSに既定では自己証明書を使用しています。その場合「この接続ではプライバシーが保護されません」と注意が表示されますが、問題ありませんので接続してください。

アクセスが成功すると、以下の画面が表示されます。

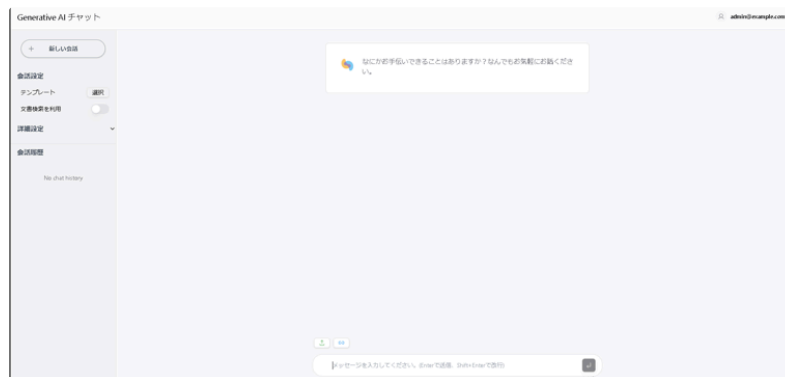


2. ログインを押し、初期管理ユーザでサインインします。初期ユーザ以外でログインする場合、Eメールには登録時のメールアドレスを指定してください。

- ①
- ・ 初期管理ユーザのアカウント・パスワードは別途「初期アカウント一覧」を確認してください。
 - ・ 初期管理ユーザはEメールにアカウント名を指定してください。



3. サインインに成功すると、以下の画面が表示されます。



※LLMのセットアップが完了していない場合は対話の実行は不要です。LLMセットアップ後であればメッセージ入力欄に「こんにちは」と入力し応答が返ってくるかを確認してください。

4. アカウントのメニューからログアウトしてください。



4.4. APIの確認

APIのセットアップが完了しているか確認します。APIを使用するためにはAPIキーが必要です。

i 初期のAPIキーは別途「初期アカウント一覧」を確認してください。

i HTTPSに既定では自己証明書を使用しています。その場合、curlだと-kのオプションの指定が必要です。正規の証明書を使用する場合は指定の必要はありません。

なお、下記のcurlの実行例では改行表示の都合上「¥」が含まれますが、実行時は削除して一行にして実行してください。

4.4.1. 推論APIの確認

1. 以下のコマンドを実行します。

```
1 curl -X GET https://<GENAI_DOMAINの指定値>/genai-api/v1/histories ¥
2 -H "Content-Type: application/json" -H "x-nec-genai-client-id: admin@example.com" ¥
3 -H "Authorization: bearer <API Key>" -k
```

2. 成功すれば会話履歴が表示されます。

```
1 {"historyList":[...]}
```

4.4.2. ベクトルDB管理APIの確認

1. Windowsの場合、テスト用のjsonファイル(test.json)を用意し、以下の内容を記述します。

```
1 {
2   "vectorIndex": "test-index",
3   "filepath": "keyword.txt",
4   "file" : "5ZC16KiA6JGJ44Gv44CM6aas44Gu6ICz44Gr5b+15LuP44CN44Gn44GZ44CC"
5 }
```

2. 以下のコマンドを実行してテストデータをインデックスに登録します。

```
1 curl -X POST https://<GENAI_DOMAINの指定値>/genai-search-api/document/addDocument ¥
2 -H "Content-Type: application/json" ¥
3 --data @test.json ¥
4 -H "Authorization: bearer <API Key>" -k
```

2. 登録に成功すると以下が表示されます。

```
1 null
```

- 「管理ポータル画面の確認」の手順1、2を行い、管理ポータル画面にアクセスします。
- 左側のメニューからインデックスを選択、インデックス一覧から「test-index」を探し、削除のゴミ箱アイコンを押します。
- 削除確認のダイアログが表示されるのでOKを押します。
- F5を押して画面を更新します。画面を更新後にインデックス一覧に何も表示されなければ削除成功です。
- 左側のメニューからログアウトを押しログイン画面に戻ります。

4.5. ハルシネーション対策機能の確認

ハルシネーション対策機能は「推論を用いない回答根拠の確認」と「推論を用いた回答根拠の確認」で確認します。それぞれAPIを実行して確認します。

i 初期のAPIキーは別途「初期アカウント一覧」を確認してください。

i

HTTPSに既定では自己証明書を使用しています。その場合、curlだと-kのオプションの指定が必要です。正規の証明書を使用する場合は指定の必要はありません。

4.5.1. テストデータの作成

テスト用の登録文書を作成します。Windowsの場合、メモ帳などのテキストエディタを開き、以下の文章のファイルを作成してください。ファイル名はここではtest.jsonとします。

```
1 {
2   "answer": "これはテストです。",
3   "sources": [
4     {
5       "text": "これはテストです。"
6     }
7   ]
8 }
```

4.5.2. 推論を用いない回答根拠の確認

1. コマンドプロンプトを開き、テストデータのあるフォルダに移動します。

```
1 cd <テストデータのあるフォルダパス>
```

2. 以下のAPIを実行します。

```
1 curl -X POST https://<GENAI_DOMAINの指定値>/genai-api/v1/alignment ¥
2 -H "Content-Type: application/json" ¥
3 --data @test.json ¥
4 -H "Authorization: <API Key>" -k
```

3. 正常に動作した場合、以下のような結果が返却されます。

```
1 {"explainContents":{"answer":"これはテストです。", ...}}
```

4.5.3. 推論を用いた回答根拠の確認

i 本確認は以下の条件を満たす場合のみ実施してください。満たさない場合は実施不要です。

- ・セットアップガイドの「ハルシネーション対策機能のセットアップ」にて「推論を用いた回答根拠の確認のセットアップ」が可能な条件を満たし作業が完了している

1. コマンドプロンプトを開き、テストデータのあるフォルダに移動します。

```
1 cd <テストデータのあるフォルダパス>
```

2. 以下のAPIを実行します。

```
1 curl -X POST https://<GENAI_DOMAINの指定値>/genai-api/v1/entailment ¥
2 -H "Content-Type: application/json" ¥
3 --data @test.json ¥
4 -H "Authorization: <API Key>" -k
```

3. 正常に動作した場合、以下のような結果が返却されます。

```
1 {"explainContents":{"answer":"これはテストです。", ...}}
```

4.6. 検索対話の確認

セットアップしたLLMに対しインデックスに登録した文書を用いた対話ができることを確認します。

i 本手順はセットアップガイド実施完了後のみ実施してください。セットアップガイドの作業が完了していない場合は本手順は実施不要です。

4.6.1. インデックスの作成

検索対話を行うためには事前にインデックスの追加と文書を登録する必要があります。

1. 「管理ポータル画面の確認」の手順1、2を行い、管理ポータル画面にアクセスします。
2. 左側のメニューからインデックスを選択、インデックス一覧の追加ボタンを押します。以下の値を設定し、追加ボタンを押します。

i インデックス名 : test-index
 所属グループ選択 : ALL USERS GROUP
 インデックスの説明 : テスト用インデックス

インデックス追加

インデックス名 必須 ?

test-index

利用可能グループとユーザ選択

グループ選択 ユーザ選択

グループを検索...

ALL USERS GROUP

以下のグループとユーザに権限を付与します

ALL USERS GROUP

インデックスの説明
 最大2048文字まで入力できます。

テスト用インデックス

キャンセル 追加

3. F5を押し画面を更新します。画面を更新後にインデックス一覧に「test-index」が表示されれば追加成功です。
4. テスト用の登録文書を作成します。Windowsの場合、メモ帳などのテキストエディタを開き、以下の文章のファイルを作成してください。ファイル名はここではtest.txtとします。

1 合言葉は馬の耳に念仏です。

5. 作成したインデックスの文書管理アイコンをクリックします。

インデックス一覧

更新 追加

グループ絞り込み

検索...

インデックス名	グループ	説明	文書数	編集	文書管理	削除
test-index	ALL USERS GR...	テスト用インデックス	0			

ページあたりの行数: 15 1~1/1

6. 文書登録一覧画面の追加ボタンを押し、文書登録ダイアログを開きます。

登録文書一覧

インデックス名: test-index

← 戻る

🔄 更新

+ 追加

文書名	登録日	削除
行がありません。		

ページあたりの行数: 25 0~0/0 < >

7. 先ほど作成したテスト用文書をドラッグアンドドロップで追加し、登録ボタンを押します。

文書登録

登録するファイルをドラッグアンドドロップしてください。

登録可能な拡張子: pdf xls.xlsx pptx docx csv txt md

文書名	サイズ	更新日	削除
test.txt	39 B	2025/04/10 17:22:42	🗑️

1~1/1 < >

+ エクスプローラーで開く

キャンセル

+ 登録

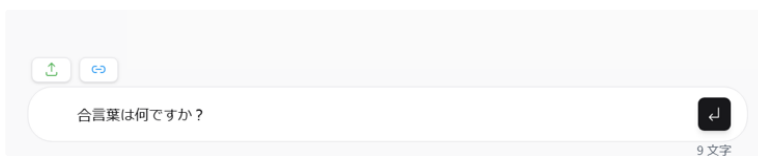
8. 左側のメニューからログアウトを押しログイン画面に戻ります。

4.6.2. 検索対話の実施

1. 「チャット画面の確認」の手順1、2を行い、チャット画面にアクセスします。
2. 左メニューの「文書検索を利用」を有効にし、検索対象に「test-index」を選択します。



3. 会話内容に「合言葉は何ですか?」と入力し、送信します。



4. 回答が表示され、参照に「test.txt」が表示されることを確認します。

質問: 合言葉は何ですか？
回答: 合言葉は「馬の耳に念仏です」。

[参照]

- test.txt

4.6.3. 検索対話後の作業

作成したテストデータを削除します。

1. 「管理ポータル画面の確認」の手順1、2を行い、管理ポータル画面にアクセスします。
2. 左側のメニューからインデックスを選択、インデックス一覧から「test-index」を探し、削除のゴミ箱アイコンを押します。
3. 削除確認のダイアログが表示されるのでOKを押します。
4. F5を押し画面を更新します。画面を更新後にインデックス一覧に何も表示されなければ削除成功です。
5. 左側のメニューからログアウトを押しログイン画面に戻ります。